

生き物を育む農業を親子で体験 赤とんぼ米生き物観察会



赤とんぼが舞う農村風景の復活を目指す豊田・みよし環境保全型農業推進協議会（JAあいち豊田、愛知県、豊田市、みよし市）は6月29日、特別栽培米ミネアサヒ「赤とんぼ米」作りに賛同する消費者「赤とんぼ米友の会」を招いて生き物観察会を開きます。今年は、9家族28人が参加予定で、赤とんぼ米を栽培する豊田市花沢町の水田で行います。

生き物観察会は2016年から始まり、今回で9回目。過去には、全国的に激減したアキアカネのヤゴの抜け殻1つを確認しました。環境に配慮した農業が少しずつ成果を上げていると関係者は期待を寄せています。

赤とんぼ米の栽培は手間がかかる分、米の価格に反映されます。継続的に栽培できるよう、消費者から理解を得ることを目的として農業体験を開いています。



▲水田に住む生き物を観察し、環境について考えます

令和6年産 赤とんぼ米栽培概況

栽培農家	19戸
栽培面積	12.25ヘクタール
出荷予定量	732俵（43.9トン）

赤とんぼ米とは？

「赤とんぼ米」は農薬により激減したといわれる赤とんぼの復活を目指し、環境にやさしい農薬を使い、赤とんぼの生態に配慮して栽培されたお米で、2016年から出荷を始めました。農薬の成分数は愛知県の慣行基準の5割以下で、化学肥料に含まれるチッソ成分5割以下の特別栽培米です。一般消費者を含めて、栽培を客観的に検証する「環境保全型農業認証委員会」を設置し、一般米との差別化を図っています。人にも環境にも優しい安全・安心なお米です。国の「みどりの食料システム戦略」に先駆けた取り組みです。

取材日

日時：6月29日（土） 午前10時00分～ 雨天決行

場所：豊田市花沢町芦原32付近の水田

※午前9時30分までにJAあいち豊田下山営農センター（豊田市大沼町越田和37-1）に来ていただければ、JA職員が生き物観察会場に誘導いたします。

※農道への駐車となるため、近隣住民への配慮をお願いいたします。

※取材希望の方は、下記お問い合わせ先までご連絡をお願いします。担当者不在の場合は広報課（0565）31-2361へご連絡ください。

お問い合わせ先：

JAあいち豊田 営農生活部 営農相談課 担当：和田

〒471-8511 豊田市西町4丁目5番地 電話（0565）31-2460

または、広報課 電話（0565）31-2361 E-mail k.koho@toyota.aichi-ja.or.jp

